

平成 30 年 11 月 6 日

岡崎 英人

## OIST 検討会として議論すべきポイント（私案）

（初めに）

OIST は 2011 年に設立し、創立間もない大学院大学である。この間、関係者の衷心からのご努力により類まれな成果を上げておられる。OIST の役割としては、簡単に言えば、世界的な研究成果を上げていくことと沖縄の振興に貢献していくことである。一見すると二律背反のミッションを抱えているが、沖縄振興局の強力なバックアップを受け、学長の強力なリーダーシップの下、関係者のご尽力もあり、世界的な研究者の集積や学生の教育、更に OIST 発の世界的なイノベーションも生まれつつある。

正に、日本の教育機関では類を見ない展開が駆け足で行われてきたと言え、手探り状態の草創期にありながら、ミッションを達成すべくプラットフォームの基礎を構築してきたものと言える。

一方、上記の実現のためには、特段の財政支援がなされてきたことも事実である。この措置は、日本の国立大学の交付金が年々減少している状況や、日本の財政状況を勘案すると、破格な対応と言っても過言では無い。これらの措置に関しては、専門家ばかりでなく、一般国民に対しても分かり易く、なぜそのような財政支援措置が必要なのか、どのような意義があるのか等を伝えていく必要がある。

これらの状況を踏まえ、今後の 10 年を迎えるに当たっては、第一義的には OIST の研究者が研究に没頭できる環境整備を行うことを前提に、OIST を巡る諸条件を具体化していく必要があると考える。以下、その視点（ポイント）を思いつくまま列挙する。

（議論のポイント）

## 1. OIST の自立化をどう見るか

- 国の支援を全く受けない状態は考えられないので、OIST がどういう状態になったら自立したとみなすのか。この点に関しては、自立化をすると国の支援が低減していくと通常は考えがちであるが、世界的な研究を継続して行い成果を出すことを第一義的に考え、OIST の自助努力は認める方向で考えたい。

## 2. OIST の国の支援について一定のルールを設けるか

- 難しい論点ではあるが、一般の人にはルール通り実施されていると受け入れやすい  
- OIST の予算を義務的な経費と政策的な経費に分けて対応  
- 政策的な経費に係る国の支援について、複数の項目毎にポイント制にすることも考えられる。例えば、競争的資金や民間資金の獲得状況、研究論文の引用数等

## 3. OIST の研究者の選定（研究テーマの選定）を如何に行うか

- 技術立国たる日本を支える基礎研究  
- IoT・AI 等の第 4 次産業革命対応技術

## 4. OIST の沖縄振興に対する貢献をどう見るか

- 沖縄の産業面の特徴である観光・IT への貢献  
- 沖縄の機関（大学・産業支援機関・行政・金融機関（VC を含む））との強固な連携と具体的なプロジェクトの推進  
- 沖縄のベンチャー・中小企業支援とどう結び付けていくか

## 5. OIST のコーディネート機能をどこまで充実させるか

- 研究成果（進行途中のものも）をどう分かり易く見せていくか  
- 研究者と企業とのマッチング機能をどこまで行うか  
- 共同研究案件のフォローは  
- 競争的資金獲得の支援はどこまで行うか

## OIST 検討会に関わる意見

東京農工大学 宮浦千里

## ① OIST 検討会として議論すべきポイント

OIST の将来計画、強化すべき学問分野、わが国としての位置付け、若手研究者の育成における役割等が議論のポイントであると考ええる。

特に、わが国における OIST のアピールをもっと拡大し、わが国の若手研究者養成において積極的な役割を担っていただくことが重要であると考ええる。今日、わが国の若手研究者が海外に出なくなったことが課題となっているが、OIST への短期海外類似経験によって、国際的な環境を経験することが可能となり、その後、若手研究者が海外研究環境へチャレンジする意識や機会が増大することが期待できる。

強化すべき学問分野については、OIST の将来計画にも密接に関連するため、十分な議論が必要である。特に、工学分野・情報分野とライフサイエンスとの融合などが期待できると考えられる。

## ② 議論に際し留意すべきポイント

OIST のわが国における役割、沖縄地区に立地している優位性、国際的な位置付け、世界トップレベルのシニア研究者が世界から集まってくる若手研究者を育成する仕組み、国内において海外類似経験を体験できる役割など、OIST の特色を活かした方向で議論してゆくことが重要である。

平成 30 年 11 月 5 日

## OIST 視察を踏まえた意見等の整理

### 1. 議論すべき項目

- (1) OIST の国際的及び国内的な位置づけ（あるべきポジショニング）現状と将来目標につき SWOT 分析なども検討してはどうでしょうか？
- (2) 教育・研究・地域貢献・産学連携についての計画と実績及び目標のありかた  
また、4つの項目の相互関係についても検討する必要があります。琉球大学との連携も。
- (3) 学際性の定義と範囲  
どの分野・領域を強化するのか
- (4) 財政の在り方（国費と民間資金、経常助成と外部資金）

### 2. 留意すべき項目

- (1) 国からの大きな財政支援を得ている特別の学校法人であること
- (2) 沖縄振興の役割も担っていること
- (3) 教職員の定着性と流動性のバランスを図る必要があること（活性化と持続可能性）：短期的視点と長期的視点の調和

山本清

沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会(第15回)概要

日 時:平成30年9月18日(火)

場 所:OIST キャンパス

参加委員:相澤座長、西澤座長代理、岡崎委員、瀧澤委員、宮浦委員、山本委員

内 閣 府:北村局長、馬場審議官、重永次長、中島企画官 他

O I S T:グルース学長、バックマン首席副学長、吉尾 COO、コリンズプロボースト他

◆10:00-12:20 第15回 OIST 検討会 OIST センター棟 C209 会議室

(議題)

1. 平成 31 年度概算要求について
  - ・内閣府より、OIST の概算要求内容について説明
2. 10 年後見直しに向けた OIST の計画と現状について
  - ・グルース学長及び各担当副学長等より、OIST の目指すビジョン、目標、計画、現状及び今後の予定について説明
  - ・吉尾 COO より、OIST がこれまでに実施及び受検してきた評価の概要について説明
3. 平成 30 年度内閣府外部委託推進調査 進捗状況報告
  - ・内閣府より、本年度実施する外部委託推進調査の概要及び進捗状況について説明

◆13:00-14:30 OIST ラボツアー

(訪問先)

1. 山本・ユニット(細胞シグナルユニット)
2. エコノモ・ユニット(生物多様性、複雑性研究ユニット)
3. シェン・ユニット(マイクロ、バイオ、ナノ流体ユニット)
4. ダニ・ユニット(フェムト秒分光ユニット)